

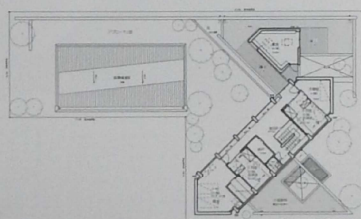
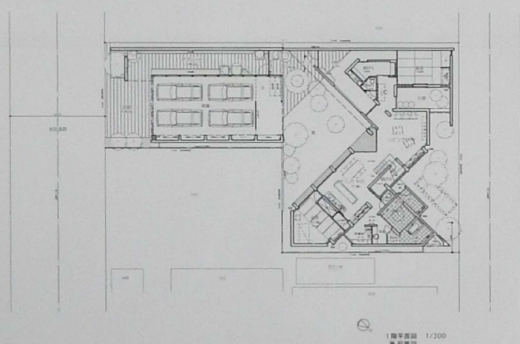


古津の家



L型の変形敷地である。田の字4区画分分譲地の南側一区画を削られた敷地形状はイレギュラーな配置計画を強いる。機能に従い分割配置したボリュームと、そのはざまに生じるオープンスペースが有機的に関連しあう建築とした。4台分の駐車場棟を高さを抑えて南側にプロット。その脇の路地状アプローチは、隣地境界沿に建物へとつづくコンクリート壁によって、自然なかたちで居住空間へ導く。

一方、主要な居室は45°に振れた軸線上に2階建のボリュームとして配置。隣家との視線の交錯を回避しつつ前後に三角形のオープンスペースを2つ生成する。南側の主庭は角度のふれによって錯視的な広がりをもち、この住宅の要となる。又、もうひとつの後の三角形は、街路の延長としてまちなみに対する意識を示す。



1階平面図 1/300

2階平面図 1/300



この変形敷地はなかなかのくせものとお見受けしました。

